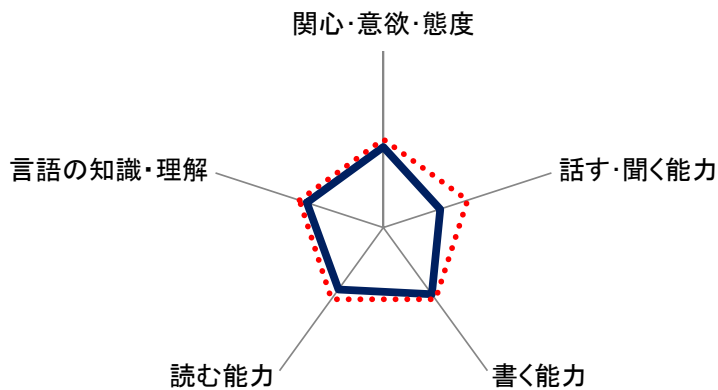


○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

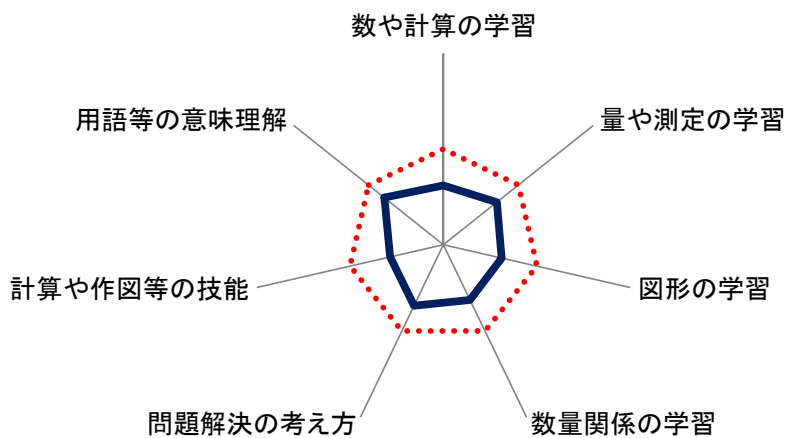
※ グラフはA問題とB問題の平均で表示

【国語】

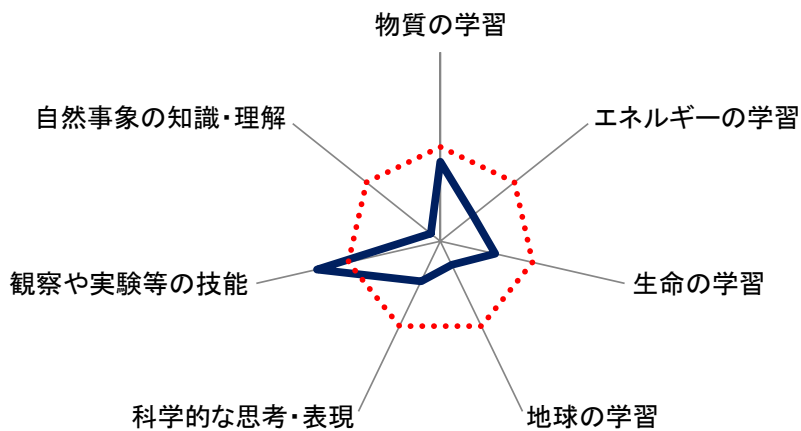
— 町平均
..... 全国平均



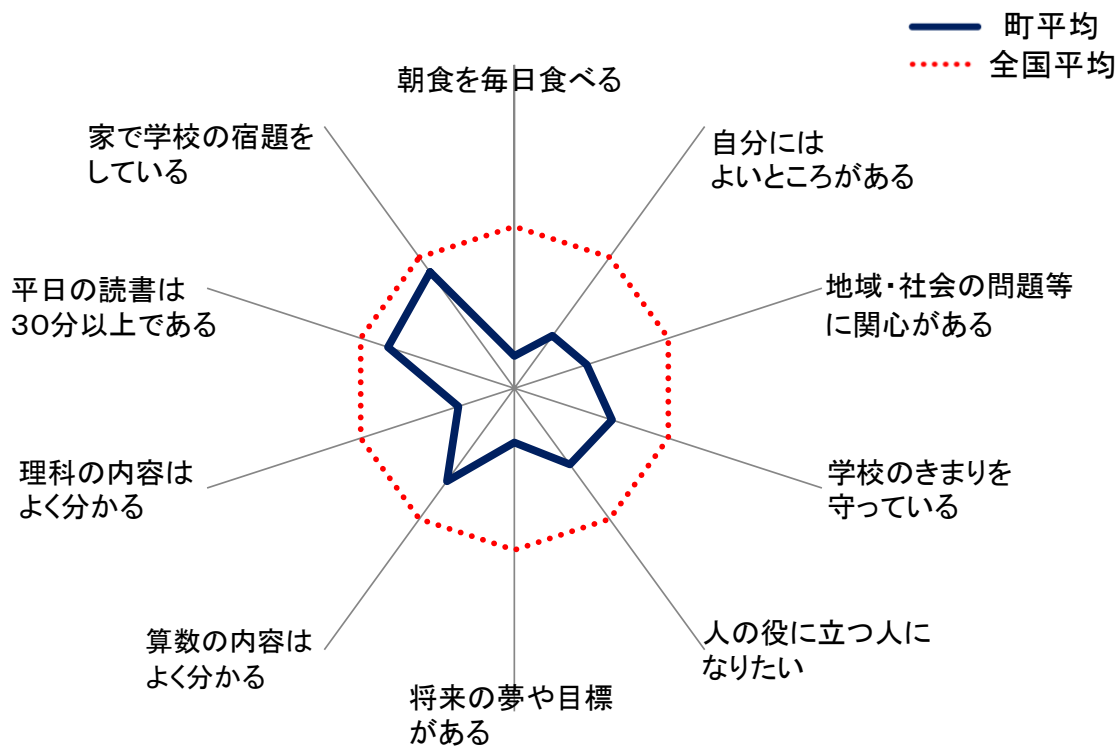
【算数】



【理科】



○ 児童質問紙調査 (全国の平均回答率との差: 肯定的な回答)



○ 結果の分析と改善策

教科に関する調査では、国語は多くの項目で全国平均とほぼ同じになっている。算数、理科の多くの項目で全国平均とほぼ同じか下回っており、特に算数は「数や計算の学習」などの基礎基本の定着が、理科は、良好な「観察や実験等の技能」が実感を伴った理解につながっていないことが課題として挙げられる。今後は、課題解決に向けて、学習形態を工夫し、話したり聞いたりする活動を充実させるなど、考える過程を大切にした授業展開を工夫した授業改善に努めるとともに、知識と活用のバランスの取れた学力の育成を図る取組の推進が望まれる。

児童質問紙調査では、取り上げている全ての項目で、肯定的な回答が全国平均を下回っている。特に、昨年度は良好な結果であった「自分にはよいところがある」の項目が、本年度は全国平均を大きく下回っている。中学校に比べ、自尊感情や規範意識、基本的な生活習慣に関する意識が低い傾向があるので、児童の実態を把握し、課題を整理することで、学校と家庭、地域の連携はもとより、小中の連携を充実させることにより、進んで自分の生活をよりよくしていこうとする児童の育成に取り組むことが望まれる。